

- 1 あなたの年齢はいくつですか？ 年齢を記入してください _____ 歳
- 2 学校は？ ①小学校 ②中学校 ③高校 ④専門学校 ⑤中学卒業後で無職 ⑥就労中
- 3 何年生ですか？学年を記入してください _____ 年生
- 4 男性ですか、女性ですか？ ①男性 ②女性
- 5 今回、この施設に入所してからどのくらいになりますか？ _____ 年 _____ ヶ月
- 6 あなたの身近(友達、先輩、知り合い、家族など)で以下のような薬物をやっている人はいましたか？
- | | | |
|----------------------------------|-----|------|
| 1) シンナーやトルエン(ボンド、マニユキヤの除光液なども含む) | ①いた | ②いない |
| 2) マリファナ(大麻、ハッパ、ハシッシも同じ) | ①いた | ②いない |
| 3) 覚せい剤(エス、スピード、シャブも同じ) | ①いた | ②いない |
| 4) ガス(ライター用ガス、カセットコンロ用ガスなど) | ①いた | ②いない |
| 5) MDMA(エクスタシー、エックス、Xも同じ) | ①いた | ②いない |
| 6) コカイン(クラックも同じ) | ①いた | ②いない |
| 7) リタリン(病気治療以外の目的で) | ①いた | ②いない |
| 8) 睡眠薬(病気治療以外の目的で) | ①いた | ②いない |
| 9) 精神安定剤(病気治療以外の目的で) | ①いた | ②いない |
| 10) ブロン葉などのセキ止め液(病気治療以外の目的で) | ①いた | ②いない |
| 11) その他の薬物 | ①いた | ②いない |
- 7 あなた自身は以下のような薬物を1回でも使用したことがありますか？
- | | | |
|----------------------------------|-----|------|
| 1) シンナーやトルエン(ボンド、マニユキヤの除光液なども含む) | ①ある | ②ない |
| 2) マリファナ(大麻、ハッパ、ハシッシも同じ) | ①ある | ②ない |
| 3) 覚せい剤(エス、スピード、シャブも同じ) | ①ある | ②ない |
| 4) ガス(ライター用ガス、カセットコンロ用ガスなど) | ①ある | ②ない |
| 5) MDMA(エクスタシー、エックス、Xも同じ) | ①ある | ②ない |
| 6) コカイン(クラックも同じ) | ①ある | ②ない |
| 7) リタリン(病気治療以外の目的で) | ①いた | ②いない |
| 8) 睡眠薬(病気治療以外の目的で) | ①ある | ②ない |
| 9) 精神安定剤(病気治療以外の目的で) | ①ある | ②ない |
| 10) ブロン葉などのセキ止め液(病気治療以外の目的で) | ①ある | ②ない |
| 11) その他の薬物 | ①ある | ②ない |
- 8 この施設に入る前、お酒(アルコール類)をどのくらい飲んでいましたか？
①飲んだことはない ②1年で数回飲んだ ③月に2、3回 ④週に2、3回かそれ以上
- 9 あなたの身近に「シンナー遊び」の結果、病気や異常になった人がいましたか？
①いた ②いない
- 10 入所前、「シンナー遊び」に誘われたことがありますか？ ①ある ②ない
- 11 施設に入る前、「シンナー遊び」のために有機溶剤(シンナー、トルエン、その他)を手に入れようとした場合、それはどの程度難しいことでしたか？
①簡単に手に入る ②少々苦勞するが、なんとか手に入る
③ほとんど不可能だ ④絶対不可能だ
- 12 これまでに一回でも「シンナー遊び」を経験したことがありますか？ある場合は、初めて経験した年齢を選んでください
①経験がない ②10歳以下 ③11歳 ④12歳 ⑤13歳
⑥14歳 ⑦15歳以上 ⑧経験はあるが年齢はおぼえていない
- 13 施設に入る前、最もしていた時で「シンナー遊び」をどのくらいしていましたか？
①したことはない ②今まで1、2回くらい ③数回以上した ④ほとんど毎日

- 14 入所前から「シンナー遊び」が法律で禁止されていることを知っていましたか？
 ①知っていた ②知らなかった
- 15 「シンナー遊び」をする前(したことがない人は施設入所前)、あなたは「シンナー遊び」をどう思っていましたか？
 ①法律で禁じられているから、すべきではないと思っていた
 ②法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思っていた
 ③法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思っていた
- 16 法律で「シンナー遊び」を禁止しているのを「シンナー遊び」をする前(したことがない人は施設入所前)どう思っていましたか？
 ①当然だと思っていた
 ②しかたないことだと思っていた
 ③麻薬・覚せい剤とちがって、シンナーくらい禁止しなくてもいいのではないかと考えていた
 ④そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思っていた
- 17 「シンナー遊び」をしすぎたり繰り返したりすると、下のようなことがおこることがあります。「シンナー遊び」をする前(したことがない人は施設入所前)、「シンナー遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。
 ①急性中毒死(吸っていてそのまま急に死ぬこと)
 ②多発神経炎(手足の筋肉や神経がおとろえ、物がつかめなくなったり、歩けなくなる)
 ③精神病状態(何もないのに物が見えたり声が聞こえたりする幻覚、誰もいないのに自分が見られているとか自分が噂されていると思ひこんだりする妄想がでること)
 ④無動機症候群(何もする気がなくなり、学校を欠席したり仕事が長続きしなくなる)
 ⑤フラッシュバック(「シンナー遊び」をやめて吸わなくなったのに、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻覚や妄想が出る)
 ⑥いずれも知らなかった
- 18 「シンナー遊び」の結果、上記のような精神病状態やフラッシュバックなどを体験したことがありますか？体験したことすべてに○をつけてください。(もともと「シンナー遊び」をしていない人は⑤を選んでください)
 ①精神病状態 ②フラッシュバック ③多発神経炎
 ④無動機症候群 ⑤「シンナー遊び」はしたことがない
- 19 「シンナー遊び」をすると上記質問のような急性中毒死・多発神経炎・精神病状態・無動機症候群・フラッシュバックをおこすことを知っていたら「シンナー遊び」をしなかったと思いませんか？(もともと「シンナー遊び」をしていない人は③を選んでください)
 ①しなかったと思う ②やはりしていたと思う ③「シンナー遊び」はしたことがない
- 20 この施設を出た後、「シンナー遊び」はやらないと思いますか？
 ①絶対やらないと思う ②多分やらないと思う ③多分やると思う ④絶対やると思う
- 21 「③多分やると思う」「④絶対やると思う」と答えた人は、その理由を以下から選んであてはまることすべてに○をつけてください。
 ①誘われたらやると思うから ②今もやりたいと思っているから
 ③いやなことがあったらやると思うから ④なんとなくそう思うから
- 22 あなたの身近に「ガスパン遊び(ガスの吸引)」の結果、病気が異常になった人がいましたか？
 ①いた ②いない
- 23 入所前、「ガスパン遊び」に誘われたことがありますか？ ①ある ②ない
- 24 施設に入る前、「ガスパン遊び」のためのライターガスなどを手に入れようとした場合、それはどの程度難しいことでしたか？

- ①簡単に手に入る ②少々苦勞するが、なんとか手に入る
③ほとんど不可能だ ④絶対不可能だ

25 「ガスパン遊び」をする前(使ったことがない人は施設入所前)、「ガスパン遊び」についてあなたは どう思っていましたか？

- ①「ガスパン遊び」は知らなかった ②関心がなかった ③見てみたかった ④試してみたかった

26 これまでに一回でも「ガスパン遊び」を経験したことがありますか？ある場合は、初めて経験した年齢を選んでください

- ①経験がない ②10歳以下 ③11歳 ④12歳 ⑤13歳
⑥14歳 ⑦15歳以上 ⑧経験はあるが年齢はおぼえていない

27 施設に入る前、最もしていた時で「ガスパン遊び」をどのくらいしていましたか？

- ①したことはない ②今まで1、2回くらい ③数回以上した ④ほとんど毎日

28 「ガスパン遊び」をする前(したことがない人は施設入所前)、あなたは「ガスパン遊び」をどう思っていましたか？

- ①すべきではないと思っていた ②少々ならかまわないと思っていた
③かまわないと思っていた ④「ガスパン遊び」は知らなかった

29 「ガスパン遊び」をすると質問15のような精神病状態や急性中毒死をおこすことをガスパン遊びをする前に(したことがない人は施設入所前)知っていましたか？「ガスパン遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ①精神病状態 ②急性中毒死 ③いずれも知らなかった

30 「ガス」を使った結果、精神病状態やフラッシュバックを体験したことがありますか？体験したことすべてに○をつけてください。(もともと「ガス」を使っていない人は③を選んでください)

- ①精神病状態 ②フラッシュバック ③「ガスパン遊び」はしたことがない

31 「ガスパン遊び」をすると、精神病状態や急性中毒死をおこすことがあるのを知っていたら「ガスパン遊び」をしなかったと思いますか？(もともと「ガス」を使っていない人は③を選んでください)

- ①使わなかったと思う ②やはり使ったと思う ③「ガスパン遊び」はしたことがない

32 この施設を出た後、「ガスパン遊び」はやらないと思いますか？

- ①絶対やらないと思う ②多分やらないと思う ③多分やると思う ④絶対やると思う

33 「③多分やると思う」「④絶対やると思う」と答えた人は、その理由を以下から選んであてはまることすべてに○をつけてください。

- ①誘われたらやると思うから ②今もやりたいと思っているから
③いやなことがあったらやると思うから ④なんとなくそう思うから

34 あなたの身近に大麻(マリファナ、ハシッシ、ハッパ)を吸った結果、病気や異常になった人がいましたか？

- ①いた ②いない

35 入所前、大麻の使用に誘われたことがありますか？

- ①ある ②ない

36 施設に入る前、大麻を手に入れようとした場合、それはどの程度難しいことでしたか？

- ①簡単に手に入る ②少々苦勞するが、なんとか手に入る
③ほとんど不可能だ ④絶対不可能だ

37 大麻を吸う前(使ったことがない人は施設入所前)、大麻についてあなたは どう思っていましたか？

- ①大麻は知らなかった ②関心がなかった ③見てみたかった ④試してみたかった

38 これまでに一回でも大麻を吸ったことがありますか？ある場合は、初めて経験した年齢を選んでください

- ①経験がない ②10歳以下 ③11歳 ④12歳 ⑤13歳
⑥14歳 ⑦15歳以上 ⑧経験はあるが年齢はおぼえていない

- 39 施設に入る前、最もしていた時で大麻をどのくらい吸っていましたか？
 ①したことはない ②今まで1, 2回くらい ③数回以上した ④ほとんど毎日
- 40 入所前から大麻が法律で禁止されていることを知っていましたか？
 ①知っていた ②知らなかった
- 41 大麻を吸う前(使ったことがない人は施設入所前)あなたは大麻をどう思っていましたか？
 ①法律で禁じられているから、すべきではないと思っていた
 ②法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思っていた
 ③法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思っていた
- 42 大麻を吸う前(使ったことがない人は施設入所前)、法律で大麻を禁止しているのをどう思っていましたか？
 ①当然だと思っていた
 ②しかたないことだと思っていた
 ③麻薬・覚せい剤とちがって、大麻くらい禁止しなくてもいいのではないかと考えていた
 ④そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思っていた
- 43 大麻を吸うと質問15と同じ精神病状態や無動機症候群をおこすことを大麻を吸う前(したことがない人は施設入所前)に知っていましたか？大麻でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。
 ①精神病状態 ②無動機症候群 ③いずれも知らなかった
- 44 大麻を吸った結果、精神病状態や無動機症候群を体験したことがありますか？体験したことすべてに○をつけてください。(もともと大麻を使っていない人は③を選んでください)
 ①精神病状態 ②無動機症候群 ③大麻は使ったことがない
- 45 大麻を吸うと精神病状態や無動機症候群をおこすことがあるのを知っていたら大麻を使わなかったと思いますか？(もともと大麻を使っていない人は③を選んでください)
 ①使わなかったと思う ②やはり使ったと思う ③大麻は使ったことがない
- 46 この施設を出た後、大麻はやらないと思いますか？
 ①絶対やらないと思う ②多分やらないと思う ③多分やると思う ④絶対やると思う
- 47 「③多分やると思う」「④絶対やると思う」と答えた人は、その理由を以下から選んであてはまることすべてに○をつけてください。
 ①誘われたらやると思うから ②今もやりたいと思っているから
 ③いやなことがあったらやると思うから ④なんとなくそう思うから
- 48 あなたの身近に覚せい剤(スピード、エス)の結果、病気や異常になった人がいましたか？
 ①いた ②いない
- 49 入所前、覚せい剤(スピード、エス)の使用を誘われたことがありますか？ ①ある ②ない
- 50 施設に入る前、覚せい剤(スピード、エス)を手に入れようとした場合、それはどの程度難しいことでしたか？
 ①簡単に手に入る ②少々苦勞するが、なんとか手に入る
 ③ほとんど不可能だ ④絶対不可能だ
- 51 覚せい剤(スピード、エス)を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、覚せい剤についてあなたは
 どう思っていましたか？
 ①覚せい剤は知らなかった ②関心がなかった ③見てみたかった ④試してみたかった
- 52 これまでに一回でも覚せい剤(スピード、エス)を使用したことがありますか？ある場合は初めて経験した年齢を選んでください
 ①経験がない ②10歳以下 ③11歳 ④12歳 ⑤13歳
 ⑥14歳 ⑦15歳以上 ⑧経験はあるが年齢はおぼていない

- 53 施設に入る前、最も使っていた時で覚せい剤(スピード、エス)をどのくらい使っていましたか？
 ①したことはない ②今まで1、2回くらい ③数回以上した ④ほとんど毎日
- 54 覚せい剤(スピード、エス)を使ったことがある人はどんな方法で使用しましたか？(もともと覚せい剤をしていない人は④を選んでください)
 ①吸引 ②注射 ③吸引と注射の両方 ④覚せい剤は使ったことがない
- 55 入所前から覚せい剤が法律で禁止されていることを知っていましたか？
 ①知っていた ②知らなかった
- 56 覚せい剤(スピード、エス)を使う前(使ったことがない人は施設入所前)あなたは覚せい剤をどう思っていましたか？
 ①法律で禁じられているから、すべきではないと思っていた
 ②法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思っていた
 ③法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思っていた
- 57 覚せい剤(スピード、エス)を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、法律で覚せい剤(スピード、エス)を禁止しているのをどう思っていましたか？
 ①当然だと思っていた
 ②しかたないことだと思っていた
 ③そもそも法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思っていた
- 58 覚せい剤によって質問15と同じ精神病状態やフラッシュバックが起こることを覚せい剤を使う前(したことがない人は施設入所前)知っていましたか？覚せい剤でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。
 ①精神病状態 ②フラッシュバック ③いずれも知らなかった
- 59 覚せい剤を使った結果、精神病状態やフラッシュバックを体験したことがありますか？体験したことすべてに○をつけてください。(もともと覚せい剤を使っていない人は③を選んでください)
 ①精神病状態 ②フラッシュバック ③覚せい剤は使ったことがない
- 60 覚せい剤を使うと、精神病状態、フラッシュバックをおこすことを知っていたら覚せい剤を使わなかったと思いますか？(もともと覚せい剤を使っていない人は③を選んでください)
 ①使わなかったと思う ②やはり使ったと思う ③覚せい剤は使ったことがない
- 61 この施設を出た後、覚せい剤はやらないと思いますか？
 ①絶対やらないと思う ②多分やらないと思う ③多分やると思う ④絶対やると思う
- 62 「③多分やると思う」「④絶対やると思う」と答えた人は、その理由を以下から選んであてはまることすべてに○をつけてください。
 ①誘われたらやると思うから ②今もやりたいと思っているから
 ③いやなことがあったらやると思うから ④なんとなくそう思うから
- 63 シンナー遊び、ガスパン遊び、大麻、覚せい剤のいずれかでも使ったことがある人に聞きます。これまで使った順にそれぞれの()のなかに1から順に番号を付けてください。一つだけしかやっていない人は1のみ、二つやったことがある人は1から2まで、三つやったことがある人は1から3まで、というふう^にに経験のある薬物の数だけ使った順に番号をつけてください。(いずれも使っていない人は何もつけないかまいません)
 () シンナー遊び(シンナー、トルエン、ボンド、マニユキヤの除光液など)
 () ガスパン遊び(ライター用ガス、カセットコンロ用ガスなど)
 () マリファナ(大麻、ハッピー、ハシッシも同じ)
 () 覚せい剤(エス、スピード、シャブも同じ)
 () 睡眠薬、精神安定薬、咳止め液(病気治療以外の目的で)
 () その他の薬物(コカイン、MDMAなど)

64 施設(児童自立支援施設)に入ったのはいつですか？

- ①小学4年生以下 ②小学5年生 ③小学6年生
 ④中学1年生 ⑤中学2年生 ⑥中学3年生
 ⑦高校・専門学校生 ⑧就職中 ⑨中卒後無職中

65 家庭裁判所から呼び出されたことはありますか？ ①ある ②ない

66 以下のようないわゆる非行について、したことがあるのはどれですか？したことがあるものすべてに○をつけてください。

- ①外泊や家出をした ②人にけがをさせた ③家からお金を持ち出した
 ④自転車を盗んだ ⑤人の物やお金を盗んだ ⑥ひったくり、カツアゲ
 ⑦家の中で暴れた ⑧暴走族に入った ⑨物や家に火をつけた
 ⑩学校をさぼった ⑪バイクや自動車を盗んだ ⑫人の物やみんなの物をわざと壊した
 ⑬不良仲間とつき合った ⑭暴力団とつき合った ⑮根性焼きや入墨をした
 ⑯無免許運転 ⑰性関係のこと ⑱その他

67 このような非行を、あなたが初めてしたのはいつですか？

- ①小学校入学前 ②小学1年生 ③小学2年生 ④小学3年生 ⑤小学4年生
 ⑥小学5年生 ⑦小学6年生 ⑧中学1年生 ⑨中学2年生 ⑩中学3年生
 ⑪中学卒業以後

68 リストカット(手首以外の腕や足やなども含みます)をしたことがありますか？

- ①ない ②1回ある ③2回から3回程度ある ④数回以上ある

69 根性焼きをしたことがありますか？

- ①ない ②1回ある ③2回から3回程度ある ④数回以上ある

70 タバコに対して次の言葉の組み合わせのうちどちらに近い感じがしますか？当てはまる | 印に○をつけてください？

		非常に 1	かなり 2	やや 3	どちらとも えない 4	やや 5	かなり 6	非常に 7
1)	暗い	-----	-----	-----	-----	-----	-----	明るい
2)	弱い	-----	-----	-----	-----	-----	-----	強い
3)	おだやかな	-----	-----	-----	-----	-----	-----	はげしい
4)	興奮した	-----	-----	-----	-----	-----	-----	落ち着いた
5)	親しみやすい	-----	-----	-----	-----	-----	-----	親しみにくい
6)	安全な	-----	-----	-----	-----	-----	-----	危険な
7)	爽快(そうかい)な	-----	-----	-----	-----	-----	-----	不快な
8)	スリリングな	-----	-----	-----	-----	-----	-----	退屈な
9)	格好よい	-----	-----	-----	-----	-----	-----	格好わるい
10)	健康な	-----	-----	-----	-----	-----	-----	不健康な
11)	苦しい	-----	-----	-----	-----	-----	-----	楽しい
12)	子どもっぽい	-----	-----	-----	-----	-----	-----	大人っぽい
13)	はっきりした	-----	-----	-----	-----	-----	-----	ぼんやりした
14)	温和な	-----	-----	-----	-----	-----	-----	乱暴な
15)	陽気な	-----	-----	-----	-----	-----	-----	陰気な
16)	緊張した	-----	-----	-----	-----	-----	-----	ゆるんだ
17)	生き生きした	-----	-----	-----	-----	-----	-----	無気力な
18)	近づきにくい	-----	-----	-----	-----	-----	-----	近づきやすい

71 シンナー遊びに対して次の言葉の組み合わせのうちどちらに近い感じがしますか？当てはまる | 印に○をつけてください？

		非常に 1	かなり 2	やや 3	どちらとも えない 4	やや 5	かなり 6	非常に 7	
1)	暗い	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	明るい
2)	弱い	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	強い
3)	おだやかな	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	はげしい
4)	興奮した	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	落ち着いた
5)	親しみやすい	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	親しみにくい
6)	安全な	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	危険な
7)	爽快(そうかい)な	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	不快な
8)	スリリングな	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	退屈な
9)	格好よい	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	格好わるい
10)	健康な	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	不健康な
11)	苦しい	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	楽しい
12)	子どもっぽい	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	大人っぽい
13)	はっきりした	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	ぼんやりした
14)	温和な	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	乱暴な
15)	陽気な	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	陰気な
16)	緊張した	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	ゆるんだ
17)	生き生きした	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	無気力な
18)	近づきにくい	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	近づきやすい

質問は以上です。ありがとうございました。

分 担 研 究 報 告 書
(1-4)

大学新生における薬物乱用実態に関する研究

分担研究者 嶋根卓也 国立精神・神経センター精神保健研究所 薬物依存研究部
研究協力者 和田 清 国立精神・神経センター精神保健研究所 薬物依存研究部
三島健一 福岡大学薬学部 臨床疾患薬理学教室
藤原道弘 福岡大学薬学部 臨床疾患薬理学教室

研究要旨 近年、大学生による大麻の所持や不正栽培による逮捕などの事件が数多く報道され、社会的な関心が高まっている。本研究では、大学生の薬物乱用実態の一端を把握するために、A大学の新生 376名を対象に、自記式質問紙調査を実施し、以下の知見を得た。

- 1) 薬物乱用経験者は、大麻2名（男女各1名）、有機溶剤1名（男子）のみであった。男子は、女子に比べて、大麻との距離が近く、乱用リスクが高い可能性が示唆された。
- 2) 2007年度を除き、大麻が最も乱用されている薬物であった。しかし、2000～2008年度の推移を見る限り、薬物乱用経験は、減少傾向にあると言えそうである。
- 3) 薬物乱用リスクが高いグループほど、生活習慣に乱れがあり、危険飲酒行動や喫煙経験が多く、反社会的な問題行動を経験している傾向がみられた。

平成20年8月に新たに出された第三次薬物乱用防止5カ年戦略では、大学生への対策が盛り込まれ、1次予防の対象が大学生までに拡大されるようになった。しかし、薬物依存の予防という観点からは、全体を対象とする1次予防のみならず、薬物と既に関わりを持つ学生に対する再発予防（早期発見、早期介入などの2次予防）も重要である。大学では、健康管理センターや学生相談室といったセクションに、薬物乱用に対応できる専門職（精神科医、臨床心理士、保健師など）がいると考えられる。今後、こういったセクションが再発予防のプログラムを提供できる環境を作っていく必要があると考えられる。また、必要に応じて、外部専門機関（精神保健福祉センター、精神科医療施設、自助グループなど）からの協力を得ることも重要であろう。

A. 研究目的

青少年における覚せい剤事犯の検挙人員は減少傾向にあるものの、大麻、MDMA等合成麻薬事犯の検挙人員の6割～7割を未成年者及び20歳代の若年層が占めており、青少年を中心に乱用されている状況がうかがわれる¹⁾。また近年、大学生等若者による大麻の所持や不正栽培による事件が数多く報道され²⁻⁷⁾、社会的な関心が高まっている。

しかし、国内の大学生を対象とする薬物乱用の実態調査は、筆者らが医学系データベースを用いて検索したところ、一部の定点調査を除き、ほとんど行われていないようであった。その中で、坂口らは、大学生における薬物乱用の実態を1988年度、および1999～2000年度の2回に渡り調査を行い、薬物乱用経験率や乱用薬物の変化を比較している⁸⁾。

一方、喫煙や飲酒については、大学生のニコチン依存に関する研究^{9,10)}、大学生のアルコール乱

用（大量飲酒、問題飲酒行動など）に関する研究¹¹⁻¹⁴⁾、イッキ飲みの強要など、いわゆる「アルコール・ハラスメント」に関する意識調査¹⁵⁾など、薬物乱用・依存に関連のある研究が報告されている。

今年度も引き続き、総合大学であるA大学をフィールドに、大学生の薬物乱用（飲酒・喫煙を含む）の実態把握を試みた。また、A大学では、2000年度より薬物乱用の実態調査を独自に実施しており、2006年度より当研究部と共同研究となっている。そこで本報告では、大学新生における薬物乱用の推移を把握するため、2000～2007年度までのデータも併せて検討する。

以上の背景を踏まえて、以下の3つを研究目的とした。

1. 薬物乱用経験（飲酒、喫煙を含む）の実態を把握すること。
2. 薬物乱用実態に関する2000～2008年度の推

移を検討すること。

3. 薬物乱用と生活習慣やその他の問題行動との関連を検討すること。

B. 研究方法

1. 対象者

対象は、A 大学における新入生向けの健康関連科目を履修した 421 名の学生である。第 1 回目の講義（4 月 14 日）を使って、調査に関するインフォームド・コンセントを書面および口頭で行い、同意の得られた 377 名に対して無記名自記式の質問紙調査を実施した。この中から、新入生ではない 1 名を除外し、376 名を分析対象とした。なお、平成 20 年度の新入生は 4893 名であり、分析対象者は、この約 7.7% をカバーしている。

2. 倫理面への配慮

調査用紙には氏名など個人を特定する項目はないが、個人情報保護の観点から、以下の配慮を施した。なお、本研究は、国立精神・神経センター倫理審査委員会の承認を得た（19-2-事 4）。

- ① 調査用紙には、個人情報を書く必要はないことやデータの管理方法などを明記する。
- ② 記載内容の秘密保持のために、調査用紙と共に「個人用封筒」を配布し、調査対象者は調査用紙に回答した後、用紙をその封筒に入れて封をした上で、回収用の大きな「教室回収用封筒」に投函する形式をとる。
- ③ 「個人用封筒」の配布・封印により、白紙等による事実上の拒否を保証している。
- ④ 「個人用封筒」は未開封のまま、国立精神・神経センターに郵送され、研究協力者の立ち会いの下で、開封作業を行う。よって、調査済みの調査用紙が外部に流出することはない。なお、開封作業の段階で、開封済の封筒があった場合には、無効回答とする。

3. 調査項目

1) 質問紙の構成

調査項目は、「1. プロフィール」、「2. 日常生活」、「3. 飲酒・喫煙」、「4. 受診歴」、「5. 薬物乱用」、「6. 家族関係」、「7. 問題行動」の 7 パートからなる（詳細は質問紙を参照のこと）。

「1. プロフィール」は、基本的属性に関する質

問である。「2. 日常生活」は、大学生生活への満足度、サークル活動への参加、起床・就寝や睡眠の状況、携帯電話の利用状況、アルバイトや収入に関する質問である。「3. アルコールとタバコ」は、飲酒・喫煙の経験に関する質問である。「4. 受診歴」は、精神科・心療内科・神経内科などの受診状況に関する質問である。

「5. 薬物乱用」では、有機溶剤、大麻、覚せい剤、MDMA、コカイン、ガス、ラッシュ、向精神薬、リタリンの計 9 種類の乱用薬物について、乱用経験の有無、誘われた経験の有無、入手可能性の程度、周囲の乱用者の有無について尋ねた。なお、このパートには、慢性中毒症状の知識を問う質問も含まれるが、これは、高校までに受けた薬物乱用防止教育の効果を確認すると共に、調査を通じた薬物乱用防止教育の意味合いも有している。

「6. 家族関係」では、家族関係について、「大変良い」～「大変悪い」までの 4 段階で主観的に尋ねた。また、家族内での依存者の存在についても尋ねた。「7. 問題行動」では、いじめ、暴力、自傷行為、万引き、ギャンブル、クラブ・レイブパーティの経験など計 16 種類の問題行動の生涯経験を尋ねた。

4. データマネジメントと統計解析

調査用紙は、研究協力者の監督下で、個人用封筒が開封され、ID 番号をナンバリングした後、電子メディアへのインプットを行った。調査用紙記載内容の電子メディアへの入力には、業者に委託した。業者委託に際しては、誓約書を業者に提出させ、情報漏洩防止を徹底した。

作成されたデータセットをクリーニングした後、全変数について単純集計、および性別による二変量解析を実施した。

薬物乱用と生活習慣やその他の問題行動との関連を検討する際には、本来であれば、実際の乱用経験をアウトカムとすべきであるが、本研究では乱用経験者数が極端に少なく、統計解析ができない状態であった。そこで薬物乱用経験に代わるアウトカムとして、「薬物乱用に誘われた経験（いずれか）」、「周囲に薬物乱用者がいる（いずれか）」の情報をを用いて、どちらも該当する群（ハイリスク群：HRG）、どちらかが該当する群（リスク群：RG）、どちらも該当しない群（対照群：CG）の 3 群に分類し、群間比較を行った。

なお有意差検定は、フィッシャーの正確確率検定および傾向性の検定を用い、以上の統計解析には統計パッケージSPSS for windows 17.0.1Jを用いた。

C. 研究結果

1. 基本的属性

表1は、基本属性に関する結果である。男子学生が33.7%、女子学生が66.3%、平均年齢は18.5歳であった。浪人経験者は、全体の23.5%であった。現在の住まいは、血縁関係者と同居(52.3%)が最も多く、一人暮らし(46.7%)、非血縁関係者と同居(1.1%)と続いた。

性別による分析では、男子は、女子に比べて平均年齢が高く、浪人経験者が多く、一人暮らしをしている者が多い傾向がみられ、女子との間に有意差が認められた。

2. 日常生活

表2は、日常生活に関する結果である。大学生活への満足度は、「満足」という回答(46.7%)が最も多く、どちらとも言えない(34.4%)、不満(9.9%)と続いた。起床・就寝のリズムについては、「どちらかといえば規則的」という回答(44.1%)が最も多く、どちらかといえば不規則(27.1%)、規則的(17.8%)、不規則(10.9%)と続いた。睡眠時間については、「6~7時間」という回答が40.2%と最も多く、5~6時間(32.4%)、7~8時間(15.2%)と続いた。昼夜逆転の頻度については、「なし」とする回答が51.3%と最も多く、あったが週1回より少ない(26.9%)、週1回程度(14.6%)、週に数回程度(6.1%)と続いた。

性別による分析では、女子は、男子に比べて、大学生活への満足度が高い傾向があり、昼夜逆転の頻度が少ない傾向がみられ、男子との間に有意差が認められた。

3. 携帯電話・アルバイト

表3は、携帯電話の利用状況およびアルバイト・収入に関する結果である。携帯電話を持っていない学生は1人のみであった。月あたりの携帯電話料金は、「5,000~10,000円」という回答が65.2%と最も多かった。

次に、携帯電話への依存の程度を4つの質問項目から尋ねたところ、「携帯がないと落ち着かな

い」については、「やや当てはまる」という回答が最も多かった(42.9%)。「携帯メールがやめられない」については、「全く当てはまらない」という回答が最も多かった(42.4%)。「携帯を常に見えるところに置いている」については、「やや当てはまる」という回答が最も多かった(32.5%)。

「携帯がないと仲間との付き合いが上手くいかない」については、「やや当てはまらない」という回答が最も多かった(38.5%)。

アルバイトについては、全体の21.5%が現在何らかの形で就労していた。アルバイトの頻度は、「週に3~6日」という回答が50.6%と最も多く、就労の時間帯としては、「午後」が97.5%と最も多かった(複数回答)。

経済状況を測る設問として、月当たりで自由に使える金額を6段階で尋ねたところ、「1~2万円」という回答が最も多く(35.9%)、1万円未満(24.9%)、2~3万円(17.7%)と続いた。

性別による分析では、女子は、男子に比べて、「携帯がないと仲間との付き合いが上手くいかない」と考える傾向があり、アルバイトをしている割合が高く、男子との間に有意差が認められた。アルバイトの時間帯としては、女子は早朝や午前中に仕事をしている割合が高いのに対し、深夜に働いているのは男子の方が多く、男女間の就労時間帯には有意差が認められた。また、月あたりに自由にできる金額は、女子より男子の方が高い傾向がみられた。

4. 飲酒・喫煙

表4は、飲酒に関する結果である。飲酒経験者は、全体の87.0%であった。過去30日間の飲酒経験者は、全体の69.4%であり、その頻度は、「飲んだが週1回よりは少ない」が45.9%と最も多かった。飲酒経験者の82.0%は、大人がいない状況下での飲酒経験があり、18歳でそのような経験をするケースが多かった(29.7%)。また、危険飲酒行動として、イッキ飲み経験(21.4%)、ブラックアウト(飲酒による一時的な健忘・記憶喪失)経験(9.5%)、アルコール・ハラスメント経験(8.6%)がみられた。

性別による分析では、男子は、女子に比べて、飲酒経験率が高く、飲酒頻度が高く、イッキ飲みの経験や、アルコール・ハラスメントの被害経験が高く、女子との間に有意差が認められた。

表5は、喫煙に関する結果である。喫煙経験者は、全体の19.1%であり、喫煙の開始年齢は、「15歳」とする回答が22.2%と最も多かった。過去30日間の喫煙経験者は、全体の7.4%であり、その頻度は、「吸っていない」とする回答が60.6%と最も多く、「ほぼ毎日」とする回答は23.9%であった。

性別による分析では、男子は、女子に比べて、喫煙経験率が高く、女子との間に有意差が認められた。一方、喫煙開始年齢や喫煙頻度については有意差が認められなかった。

5. メンタルヘルスの受療状況

表6にメンタルヘルスの受療状況に関する結果を示した。これまで、メンタルヘルスの問題で、精神科・心療内科・神経内科などを受診した経験がある学生は全体の4.5%であり、そのうち11.8%は、現在も治療継続中であった。

6. 薬物乱用

表7～11に薬物乱用に関する結果を示した。

表7は、身近な薬物乱用者の存在についての結果である。全体の8.5%（男子11.5%、女子6.6%）は、何らかの薬物を乱用している人が身近にいた。その内訳は、有機溶剤(4.9%)、向精神薬(3.0%)、大麻(2.2%)、覚せい剤(1.1%)と続いた。なお、大麻については、男子の方が、女子よりも身近な乱用者が多い傾向がみられた。

表8は、薬物乱用に誘われた経験についての結果である。全体の1.6%（男子3.3%、女子0.8%）は、これまでに薬物乱用に誘われた経験がみられた。その内訳は、有機溶剤(1.1%)、大麻(1.1%)、ラッシュ(0.3%)であった。なお、大麻については、男子の方が、女子よりも誘われた経験が多い傾向がみられた。

表9は、対象者の薬物乱用経験についての結果である。全体の0.5%（男子0.8%、女子0.4%）は、何らかの薬物を乱用した経験があった。その内訳は、大麻(0.5%)、有機溶剤(0.3%)であり、他の薬物乱用は報告されなかった。

表10は、各薬物の入手可能性を「絶対不可能」から「簡単に手に入る」までの4段階で尋ねた結果である。対象者の26.4%は有機溶剤を、16.8%はガスを、14.6%は向精神薬を手に入することは「簡単」と回答した。男子は女子に比べて、大麻の入手可

能性が高い傾向がみられた。

慢性中毒症状の知識についての設問は、正答率が高く、幻視(99.5%)、幻聴(99.5%)、被害妄想(98.6%)、フラッシュバック(96.2%)といずれも9割を超えた。

7. 家族関係

表11は、家族関係についての結果である。両親の存在は、両親ともにいる(93.9%)、母親のみ(5.1%)、父親のみ(0.8%)、両親ともいない(0.3%)という結果であった。家族関係について、主観的に尋ねたところ、両親の関係は、「どちらかと言えば良い」とする回答が42.7%と最も多かった。対象者と母親との関係は、「大変良い」とする回答が56.3%と最も多く、対象者と父親との関係は、「どちらかと言えば良い」とする回答が44.3%と最も多かった。また、家族内での依存者の存在を主観的に尋ねたところ、対象者の47.2%には喫煙者(ニコチン依存症)の家族がおり、6.4%にはアルコール依存症の家族が、2.7%にはギャンブル依存の家族が、0.5%には薬物依存症の家族がいるという回答を得た。

性別による分析では、男子の両親は、女子に比べて、関係が良い傾向がみられ、女子と母親との関係は、男子と母親との関係より良好である傾向がみられ、男女間に有意差が認められた。

8. ライフイベント・問題行動

表12は、ライフイベントや問題行動の生涯経験に関する結果である。いじめられ経験(19.7%)、いじめ経験(19.2%)、無断外泊(17.9%)、万引き(16.3%)が、他の項目と比べて高い割合であった。

性別による分析では、男子は、女子に比べて、いじめ経験、無断外泊、万引き、身体的暴力、補導・逮捕、ギャンブルといった問題行動をより高い頻度で経験しており、男女間に有意差が認められた。

9. 2000～2008年度の年次推移

図1～3に、2000～2008年度における喫煙状況の推移を示した。男子では、年々減少傾向がみられる。一方、女子では2003年にピークを迎え、2006年度まで減少したが、2007年度以降上昇に転じている。

図4～6に、2000～2008年度における飲酒状況

の推移を示した。飲酒経験は、男女ともに、概ね横這い状態であった。

図7に、2000～2008年度における薬物乱用状況の推移を示した。有機溶剤、大麻、覚せい剤ともに、全体としては減少傾向にある。また、2007年度を除き、大麻が最も乱用されている薬物であった。

10. 薬物乱用リスク分類による分析

薬物乱用に関するリスクによって、対象者は、CG:対照群 91.2%、RG:リスク群 7.4%、HRG:ハイリスク群 1.4%と分類された。

表13～17に、薬物乱用リスク群と各項目との関連についての結果を示した。基本属性については、群間に有意差はみられなかった。生活習慣については、薬物乱用のリスクが高い群ほど、起床や就寝のリズムが不規則であり ($p=0.018$)、昼夜逆転の頻度が高く ($p=0.001$)、群間に有意差が認められた。携帯電話の利用状況やアルバイト・収入に関する項目との関連では、特に有意差がみられなかった。

飲酒・喫煙に関する項目では、薬物乱用のリスクが高い群ほど、飲酒頻度が高く ($p=0.018$)、イッキ飲みの経験者が多く ($p=0.001$)、ブラックアウトの経験者が多く ($p=0.030$)、アルコール・ハラスメントを受けた経験者が多く ($p=0.010$)、喫煙経験者が多く ($p<0.001$)、有意差が認められた。

家族関係に関する項目では、HRG 全員に両親が揃っていたのに対し、RG では、どちらかの親がいないケースが多くみられ、有意差が認められた ($p=0.021$)。また、自分と母親との関係について、薬物乱用のリスクが低い群ほど関係性が良いという結果を得た ($p<0.001$)。

問題行動に関する項目では、薬物乱用のリスクが高い群ほど、補導 ($p=0.003$)、無断外泊 ($p=0.001$)、いじめられ ($p=0.019$)、万引き ($p=0.005$)、出会い系サイト ($p<0.001$)、ギャング ($p=0.047$)、身体的暴力 ($p=0.011$)、クラブ・レイブパーティ ($p=0.005$) の各経験が、有意に高かった。

D. 考察

1. 対象者について

本研究の対象者は、総合大学であるA大学の新生入生向けの健康関連科目を履修した学生であった。

調査は、入学直後の4月14日に実施されていることから、飲酒・喫煙・薬物乱用をはじめとする各種経験については、大学入学後の経験という解釈より、むしろ高校3年生まで(あるいは浪人中まで)の経験と解釈する方が妥当と考えられる。

本研究は、大学1校における定点調査であるため、全国の大学生を代表するデータではないが、飲酒・喫煙を含めた薬物乱用の状況を経年的に観察している数少ない研究である。同一大学における特定の講義を受講する学生の基本属性や学力は、ほぼ一定していると考えられるため、経年的な推移を把握することで、青少年における薬物乱用の実態の一端を把握することが可能と判断している。

2. 喫煙と飲酒の状況

2000～2008年度における喫煙状況の推移を図1～3まで示したが、喫煙の生涯経験は、男女ともに減少傾向にあると言えそうである。尾崎らは、未成年者の喫煙状況に関する全国調査(1996年、2000年、2004年の3回)を通じて、未成年における喫煙経験率(生涯)の低下を報告している(図中に×で示した)¹⁶⁾。本研究における減少もこの報告に類似した傾向と考えられる。また、勝野らが実施した全国調査^{17),18)}(2004年および2006年)の結果より、本研究対象者に最も近いと考えられる高校3年生のデータ(図中データの▲)と比較すると、対象者の男子では、高校3年生のデータを上回っている一方、女子においては高校3年生のデータとほぼ一致あるいはそれを下回る結果と言える。

月喫煙率については、尾崎らの全国調査¹⁶⁾では、男女ともに減少傾向がみられているが(図中に*で示した)、本研究(2006年～2008年)では、男子は減少傾向にある一方で、女子は横這い状態と言えそうである。しかし、尾崎らの全国調査の実施時期と本研究のデータの間には数年のタイムラグがあるため、両者を単純比較できず、今後の動向に注目する必要がある。

一方、2000～2008年度における飲酒状況の推移を図4～6まで示したが、飲酒経験率(生涯)は、男女ともに、ほぼ横這い状態と解釈することができ。尾崎らの調査では、未成年者の飲酒状況(図中に×と*で示した)も減少傾向にあるが¹⁹⁾、これは本研究における知見とは異なる結果と言える。勝野らのデータ(図中データの▲)と比較すると、

対象者の飲酒経験率（生涯）は、男女ともに高校生を上回っていると言える。

つまり、大学新入生における飲酒の状況は、全国の高校生よりも高いことが示唆される。その背景としては、大学入学後の飲酒機会（新入生歓迎の飲み会など）が想定されるが、調査実施日が入学直後であることや、大人不在下での飲酒を18歳で経験している者が多い結果を踏まえると、高校卒業後あるいは浪人期間中に飲酒を経験している可能性もある。

3. 薬物乱用に関する実態

「薬物乱用をする仲間の存在」、「誘われた経験」、「入手可能性」といった薬物との距離感を問う設問においては、男女間で差がみられ、男子は、女子に比べて、大麻を使っている仲間が周囲にあり、大麻に誘われた経験があり、大麻の入手可能性が高いという結果であった。青少年期は、仲間の影響を受けやすい時期であり、すでに薬物乱用をしている仲間と関わること、実際に薬物が出回っている場所に入出入りすること、身近な仲間から薬物乱用を勧められることは、青少年期における代表的なリスクファクターだとされている^{20,21)}。したがって、本研究の対象者においては、女子よりも男子の方が大麻のリスクが高いと示唆される。

4. 薬物乱用のリスク分類による分析

生活習慣や問題行動と、薬物乱用との関連を検討するためには、実際の乱用経験をアウトカムとすべきであるが、本研究では薬物乱用経験が報告されたのは、わずか2名であり、乱用経験をアウトカムとして統計解析を行うことができなかった。先行研究によれば、有機溶剤乱用者の多くは誰かに誘われて乱用を開始しており、友人に乱用者がおり、友人から誘われた経験を持っていたという報告がある²²⁻²⁴⁾。そこで乱用経験に代わるアウトカムとして、「誘われた経験」、「薬物乱用をする仲間の存在」という薬物乱用リスクに関する情報を元に、対象者を3つのリスクグループに分類した。

薬物乱用リスクの高いグループほど、生活リズムに乱れがみられ、飲酒・喫煙の経験が多く、問題行動が多くみられる傾向は、乱用経験をアウトカムとした先行研究²⁴⁻²⁶⁾と類似する結果である。したがって、薬物乱用リスクを乱用経験に代わる

アウトカムとする妥当性は高いと考えられる。

5. 危険飲酒行動

青少年期における飲酒は、飲酒頻度や飲酒量に加えて、飲酒のスタイル（飲み方）についても注意を要する必要がある。平成20年4月には、東京都の大学内の学生寮で、新入生が急性アルコール中毒の疑いのある死亡事故が発生している²⁷⁾。本研究では、飲酒に関わる危険行動として、「イッキ飲み」、「ブラックアウト」、「アルコール・ハラスメント」の3つを取り上げた。

大学生におけるこれら危険飲酒行動の実態は、医学系のデータベースを検索した限りでは、限られた知見しか得られなかった。岐阜県内の大学・短期大学7校における2109名（男子1751名、女子358名）を対象とする調査（1986年に実施）では、全体の67.7%（男子71.9%、女子46.9%）がイッキ飲み経験があると報告されている²⁸⁾。また、千葉県私立大学理学部の男子生徒371名（1～4年）を対象とする調査（1980年に実施）では、34.0%に、飲酒中のブラックアウト経験があると報告している¹¹⁾。昭和薬科大学3年生245名に対する調査（1988年に実施）では、大量飲酒者（清酒に換算した飲酒量が宴会で5合以上）の70.6%、一般学生の35.2%が飲酒中に意識を失った経験があると報告されている¹²⁾。

これら先行研究に比べて、本研究における危険飲酒行動の経験率はかなり低く、大学生の危険飲酒行動は、以前より改善されている可能性も考えられるが、実施時期に約20年以上の時間差があることや、先行研究における対象者が新入生だけではないため、両者の単純比較は難しい。しかし、危険飲酒行動をとる学生が一定の割合で存在することには変わりはなく、薬物乱用のリスクが高いグループほど、危険飲酒行動をとる傾向も示されている。大学生の危険飲酒行動を予防していく上では、薬物乱用との関連についても注意喚起が求められる。

6. 問題行動と薬物乱用リスク

著者らは、定時制高校生を対象に、問題行動と薬物乱用との関連についての報告を行っている²⁶⁾。本研究において、薬物乱用リスクと関連がみられた項目の中で、「補導経験」、「無断外泊」、「万引き」、「身体的暴力」については、定時制高校生調

査と一致する結果であった。一方、「いじめ(被害)」は、定時制高校生調査においては有意な関連が確認できなかったが、本研究では有意な関連がみられている。「拒食・過食・食べ吐き」といった食行動の異常については、有意な関連がみられなかった。一方、「出会い系サイトの利用」、「クラブ・レイブパーティの経験」については、本調査で初めて薬物乱用リスクとの関連を確認した。

全体として、薬物乱用のリスクが高いグループほど、反社会的行動をとる傾向にあると解釈することができよう。

7. 大学における薬物乱用の予防について

薬物乱用防止新5カ年戦略²⁹⁾(平成15年7月～平成20年7月)においても、青少年に対する薬物乱用防止は目標の一つとして掲げられてきたが、薬物乱用防止教育の対象は、主として中学生・高校生であった。平成20年8月に新たに出版された、第三次薬物乱用防止5カ年戦略では、大学生への対策が盛り込まれ、「(文部科学省から)大学等に対し、入学時のガイダンスの活用を促し、その際に活用できる啓発資料を作成するなどの啓発の強化を図る」という取組が記載され、1次予防の対象が大学生までに拡大されるようになった³⁾。

全国の大学における薬物乱用防止活動の全体像は不明であるが、本研究のフィールドであるA大学は、新入生を対象とする健康関連科目(全14回)の中で、薬物乱用、アルコール、HIV/AIDSなど大学生に身近な健康リスクについて講義を行っている。総合大学である利点を生かし、薬学部、医学部、法学部の3学部から講師を出し、基礎医学的、臨床医学、法学と多角的な側面から、これらの健康リスクについての講義を行っている。これは、新入生を対象とする薬物乱用防止教育としては、モデル的な事例と呼べるだろう。

一方、薬物依存の予防という観点からは、集団を対象とする1次予防のみならず、薬物と既に関わりを持っている学生に対する再発予防も重要である。近年、大麻の所持や栽培で逮捕される大学生の報道が続いているが、刑事事件として判決が確定した学生については退学処分、起訴猶予処分となった学生に対しては、停学処分という対応がみられている^{30,31)}。しかし、停学処分中の学生へのアプローチや再発防止に関する具体的な取り組みについては不明である。

大学では、健康管理センターや、学生相談室といったセクションに薬物乱用問題に対応できる専門職(精神科医、臨床心理士、保健師など)がいると考えられる。今後、こういったセクションが再発予防のプログラムを提供できる環境を整えておく段階にきていると考えられる。また、必要に応じて、外部専門機関(精神保健福祉センター、精神科医療施設、自助グループなど)からの協力を得ることも重要であろう。

E. 結論

- 1) 薬物乱用経験者は、大麻2名(男女各1名)、有機溶剤1名(男子)のみであった。男子は、女子に比べて、大麻との距離が近く、乱用リスクが高い可能性が示唆された。
- 2) 2007年度を除き、大麻が最も乱用されている薬物であった。しかし、2000～2008年度の推移を見る限り、薬物乱用経験は、減少傾向にあると言えそうである。
- 3) 薬物乱用リスクが高いグループほど、生活習慣に乱れがあり、危険飲酒行動や喫煙経験が多く、反社会的な問題行動を経験している傾向がみられた。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 嶋根卓也、和田清：定時制高校生における薬物乱用と問題行動との関連、日本社会精神医学会, 17(3), 233-244, 2009.
- 2) 嶋根卓也：薬物依存症治療の新しい挑戦。龍谷大学矯正・保護研究センター研究年報, 第5号, p41-53, 2008.

2. 学会発表

- 1) 嶋根卓也、和田清、三島健一、藤原道弘：大学新入生における薬物乱用リスクと危険飲酒行動との関連、日本アルコール・薬物医学会雑誌, 43(4); 646-647. 第43回日本アルコール・薬物医学会総会, 横浜, 2008. 9. 18-19.
- 2) 嶋根卓也、鈴木雅子：高校生における薬物乱用のハイリスクグループの特徴-反社会行動との関連から-, 55(10); 556. 第67回日本公衆衛生学会総会, 福岡, 2008. 11. 5-7.
- 3) 鈴木雅子、嶋根卓也：高校生における薬物乱用のハイリスクグループの特徴-食行動異常

との関連から-, 55(10):556. 第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡, 2008.11.5-7.

3. その他

- 1) 嶋根卓也: 青少年における薬物乱用. 少年写真新聞社ホームページ SeDoc「最新医療情報」<http://school.sedoc.ne.jp/>
- 2) 嶋根卓也(分担執筆)、林謙治(編著): 青少年の健康リスク-喫煙、飲酒および睡眠障害の全国調査から-, 第 5 章 青少年の薬物乱用. 自由企画・出版、東京、p97-107, 2008.

G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)特になし

文献

- 1) 薬物乱用対策推進本部: 第三次薬物乱用防止五か年戦略, 内閣府, 2008.
- 2) 産経新聞社(Sankei Web): 慶応大院生ら大麻所持「路上で吸った」, 2005.9.26.
- 3) 毎日新聞社(Web 版): 〈大麻所持〉関西大生ら 3 人逮捕「学内で密売」供述 大阪, 2008.5.15.
- 4) 産経新聞社(産経ニュース Web 版): 構内で堂々と売買や吸引 大学生に広がる大麻汚染, 2008.10.2.
- 5) 朝日新聞社(asahi.com): 大麻を大学内で売買、自宅に所持 慶大生 2 容疑者を逮捕, 2008.10.30.
- 6) 読売新聞(YOMIURI ONLINE): 大麻所持容疑で高 3 女子生徒を逮捕 兵庫県警, 2008.12.5.
- 7) 毎日新聞社地方版: 大麻取締法違反: ネットで入手、高校生ら 6 人摘発 容疑で県警/鹿児島, 2008.11.7.
- 8) 坂口早苗、坂口武洋: 大学生における薬物使用の実態調査-1988 年度と 1999-2000 年度との比較-、体力・栄養・免疫学雑誌, 11(2), 46-52, 2001.
- 9) 中尾理恵子、田原靖昭、石井伸子、門司和彦: 未成年期に喫煙開始した若者の喫煙に関する認識とニコチン依存度 大学生の質問紙調査から. 保健学研究, 20(1):59-65, 2007.
- 10) 栗岡成人、吉井千春、加濃正人: 女子学生のタバコに対する意識 加濃式社会的ニコチン依存度調査票 Version 2 による解析. 京都医学会雑誌, 54(1):181-185, 2007.
- 11) 青山莞爾、森忠繁、喜多義邦: 男子大学生飲酒

者の問題飲酒行動のパターン分類. アルコール研究と薬物依存, 19(2):136-143, 1984.

- 12) 福田照夫: 大量飲酒大学生と一般大学生との飲酒状況の比較. アルコール研究と薬物依存, 29(3):195-203, 1994.
- 13) 福田照夫: Adolescent Alcohol Involvement Scale(AAIS)による大学生のアルコール乱用調査. 日本アルコール・薬物医学会雑誌, 31(5):462-474, 1996
- 14) 市川富美子、村田敦子、叶谷由佳、高田絵理子、佐藤千史: 若年女性の飲酒に関する調査研究 女子大学生の初飲状況とその後の問題飲酒行動との関連. 保健婦雑誌, 59(3):238-242, 2003.
- 15) 森和美、山口みほ: アルコール・ハラスメントに関する大学生の意識調査. アディクションと家族, 21(2):210-217, 2004.
- 16) 尾崎米厚、谷畑健生、神田秀幸、他: わが国の中高生の喫煙率はなぜ下がったか?. 第 65 回日本公衆衛生学会総会抄録集(富山) 646:2006.
- 17) 勝野真吾、吉本佐雅子、和田清、他: 高校生の喫煙、飲酒、薬物乱用の実態と生活習慣に関する全国調査 2004. 兵庫教育大学教育・社会調査研究センター報告書: 1-183, 2006.
- 18) 勝野真吾、吉本佐雅子、三好美弘、他: 高校生の喫煙、飲酒、薬物乱用の実態と生活習慣に関する全国調査 2006. 兵庫教育大学教育・社会調査研究センター報告書: 1-123, 2007.
- 19) 尾崎米厚、谷畑健生、神田秀幸、他: わが国の中高生の飲酒率の低下に関連する要因, 第 17 回日本疫学会学術総会講演集(広島) 230:2007.
- 20) National Institute on Drug Abuse (NIH Pub No.07-5605): Drugs, Brains, and Behavior-The Science of Addiction. 2008.
- 21) National Institute on Drug Abuse (NIH Pub No.04-4212): Preventing Drug Use among Children and Adolescents. A Research-Based Guide for parents, Educators, and Community Leaders. 2003.
- 22) 和田清、福井進: 薬物依存の発生因をめぐって. 精神医学, 33(6):633-642, 1991.
- 23) 和田清: 依存性薬物と乱用・依存・中毒. 星和書店, 2000.

- 24) 嶋根卓也、三砂ちづる：埼玉県下中学生における有機溶剤乱用に関する研究、日本公衆衛生雑誌.51(12);997-1007.2004.
- 25) 和田清、近藤あゆみ、尾崎米厚、勝野眞吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査（2006年）、平成18年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)研究報告書：17-91, 2007.
- 26) 嶋根卓也、和田清：定時制高校生における薬物乱用と問題行動との関連、日本社会精神医学会雑誌,17(3);233-244,2009.
- 27) 毎日新聞社（毎日.jp）：飲酒死亡-一橋大の新生入生、寮歓迎会後に死亡 急性中毒か.2008.4.28.
- 28) 水野敏明、大森正英、青山政史、他：大学生の飲酒に関する研究、教育医学.33(4);191-197.1998.
- 29) 薬物乱用対策推進本部：薬物乱用防止新五か年戦略、内閣府, 2003.
- 30) 朝日新聞：教育現場は試行錯誤-探る大麻汚染-.2008.12.9.
- 31) 産経新聞：“大麻学生”5人を処分、女子学生は退学 同志社大学.2008.12.18.

表1.対象者の基本属性

	合計(n=376)	男子(n=126)	女子(n=248)	p-value
	n (%)	n (%)	n (%)	
性別				
男子学生	126 (33.7)			
女子学生	248 (66.3)			
年齢(歳)				
平均(min-max)	18.5(18-25)	19.0(18-25)	18.3(18-24)	<0.001
浪人経験				<0.001
あり	88 (23.5)	49 (38.9)	39 (15.9)	
なし	286 (76.5)	77 (61.1)	207 (84.1)	
住まい				<0.001
血縁関係者と同居	196 (52.3)	43 (34.1)	152 (61.5)	
一人暮らし	175 (46.7)	80 (63.5)	94 (38.1)	
非血縁関係者と同居	4 (1.1)	3 (2.4)	1 (0.4)	

表2.生活習慣に関する結果

	合計(n=376)	男子(n=126)	女子(n=248)	p-value
	n (%)	n (%)	n (%)	
大学生活への満足度				0.005
非常に満足	27 (7.2)	10 (8.0)	16 (6.5)	
満足	175 (46.7)	42 (33.6)	133 (53.6)	
どちらともいえない	129 (34.4)	56 (44.8)	72 (29.0)	
不満	37 (9.9)	14 (11.2)	23 (9.3)	
非常に不満	7 (1.9)	3 (2.4)	4 (1.6)	
あなたの起床や就寝のリズムは規則的ですか				0.085
規則的	67 (17.8)	19 (15.1)	48 (19.4)	
どちらかといえば規則的	166 (44.1)	48 (38.1)	117 (47.2)	
どちらかといえば不規則	102 (27.1)	41 (32.5)	61 (24.6)	
不規則	41 (10.9)	18 (14.3)	22 (8.9)	
平均睡眠時間*				0.181
5時間未満	31 (8.2)	8 (6.3)	23 (9.3)	
5~6時間未満	122 (32.4)	33 (26.2)	88 (35.5)	
6~7時間未満	151 (40.2)	55 (43.7)	96 (38.7)	
7~8時間未満	57 (15.2)	24 (19.0)	32 (12.9)	
8~9時間未満	13 (3.5)	6 (4.8)	7 (2.8)	
9時間以上	2 (0.5)	0 (0.0)	2 (0.8)	
昼夜逆転の頻度*				<0.001
なし	193 (51.3)	50 (39.7)	141 (56.9)	
あったが週1回より少ない	101 (26.9)	34 (27.0)	67 (27.0)	
週1回程度	55 (14.6)	31 (24.6)	24 (9.7)	
週に数回程度	23 (6.1)	8 (6.3)	15 (6.0)	
ほぼ毎日	4 (1.1)	3 (2.4)	1 (0.4)	

*過去30日間に関する情報

表3 携帯電話の利用状況およびアルバイト・収入に関する結果

	合計(n=376)	男子(n=126)	女子(n=248)	p-value
	n (%)	n (%)	n (%)	
携帯電話を持っているか				1.000
はい	375 (99.7)	126 (100.0)	247 (99.6)	
いいえ	1 (0.3)	0 (0.0)	1 (0.4)	
月あたりの携帯料金(円)				0.483
5000円未満	55 (14.7)	16 (12.7)	39 (15.9)	
5000~1万円未満	244 (65.2)	81 (64.3)	161 (65.4)	
1万~1万5000円未満	36 (9.6)	14 (11.1)	22 (8.9)	
1万5000~2万円未満	10 (2.7)	6 (4.8)	4 (1.6)	
2万~2万5000円未満	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
2万5000~3万円未満	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
3万円以上	1 (0.3)	0 (0.0)	1 (0.4)	
わからない(親に任せてある)	28 (7.5)	9 (7.1)	19 (7.7)	
携帯電話依存傾向				
1.携帯がないと落ち着かない				0.070
非常に当てはまる	75 (20.0)	16 (12.7)	59 (23.9)	
やや当てはまる	161 (42.9)	57 (45.2)	103 (41.7)	
やや当てはまらない	86 (22.9)	33 (26.2)	52 (21.1)	
全く当てはまらない	53 (14.1)	20 (15.9)	33 (13.4)	
2.携帯メールがやめられない				0.090
非常に当てはまる	23 (6.1)	3 (2.4)	20 (8.1)	
やや当てはまる	77 (20.5)	24 (19.0)	53 (21.5)	
やや当てはまらない	116 (30.9)	38 (30.2)	77 (31.2)	
全く当てはまらない	159 (42.4)	61 (48.4)	97 (39.3)	
3.携帯を常に見えるところに置いている				0.976
非常に当てはまる	77 (20.5)	24 (19.0)	52 (21.1)	
やや当てはまる	122 (32.5)	42 (33.3)	79 (32.0)	
やや当てはまらない	116 (30.9)	40 (31.7)	76 (30.8)	
全く当てはまらない	60 (16.0)	20 (15.9)	40 (16.2)	
4.携帯がないと仲間との付き合いがうまくいかない				0.009
非常に当てはまる	33 (8.8)	16 (12.8)	17 (6.9)	
やや当てはまる	104 (27.8)	24 (19.2)	80 (32.4)	
やや当てはまらない	144 (38.5)	57 (45.6)	86 (34.8)	
全く当てはまらない	93 (24.9)	28 (22.4)	64 (25.9)	
現在、アルバイトをしているか				0.045
はい	81 (21.5)	19 (15.1)	61 (24.6)	
いいえ	295 (78.5)	107 (84.9)	187 (75.4)	
アルバイトの頻度				0.607
ほぼ毎日	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
週3~6日	41 (50.6)	8 (42.1)	33 (54.1)	
週1~2日	34 (42.0)	10 (52.6)	23 (37.7)	
不定期	6 (7.4)	1 (5.3)	5 (8.2)	
アルバイトの時間帯(複数回答)				
早朝	6 (7.4)	0 (0.0)	6 (9.8)	0.327
午前中	25 (30.9)	0 (0.0)	24 (39.3)	<0.001
午後	79 (97.5)	19 (100.0)	59 (96.7)	1.000
深夜	4 (4.9)	3 (15.8)	1 (1.6)	0.040
自由に使えるお金				0.036
1万円未満	93 (24.9)	27 (21.6)	65 (26.4)	
1~2万円未満	134 (35.9)	42 (33.6)	92 (37.4)	
2万~3万円未満	66 (17.7)	18 (14.4)	48 (19.5)	
3~5万円未満	52 (13.9)	22 (17.6)	29 (11.8)	
5~10万円未満	21 (5.6)	11 (8.8)	10 (4.1)	
10万円以上	7 (1.9)	5 (4.0)	2 (0.8)	

表4 飲酒に関する結果

	合計(n=376)	男子(n=126)	女子(n=248)	p-value
	n (%)	n (%)	n (%)	
飲酒経験(生涯)				0.003
あり	327 (87.0)	119 (94.4)	207 (83.5)	
なし	49 (13.0)	7 (5.6)	41 (16.5)	
飲酒経験(過去30日)				0.001
あり	261 (69.4)	102 (81.0)	158 (63.7)	
なし	115 (30.6)	24 (19.0)	90 (36.3)	
過去30日間の飲酒頻度 ^b				0.001
飲んでいない	66 (20.2)	17 (14.3)	49 (23.7)	
飲んだが週1回よりは少ない	150 (45.9)	46 (38.7)	103 (49.8)	
週に1回程度	53 (16.2)	23 (19.3)	30 (14.5)	
週に数回	53 (16.2)	29 (24.4)	24 (11.6)	
ほぼ毎日	5 (1.5)	4 (3.4)	1 (0.5)	
大人不在下での飲酒経験 ^c				0.103
あり	268 (82.0)	103 (86.6)	164 (79.2)	
なし	59 (18.0)	16 (13.4)	43 (20.8)	
大人不在下での飲酒を初めて経験した年齢 ^a				0.147
10歳以下	6 (2.2)	3 (2.9)	3 (1.8)	
11歳	2 (0.7)	0 (0.0)	2 (1.2)	
12歳	5 (1.9)	4 (3.8)	1 (0.6)	
13歳	5 (1.9)	2 (1.9)	3 (1.8)	
14歳	13 (4.8)	3 (2.9)	10 (6.1)	
15歳	28 (10.4)	14 (13.3)	14 (8.6)	
16歳	55 (20.4)	18 (17.1)	36 (22.1)	
17歳	44 (16.4)	18 (17.1)	26 (16.0)	
18歳	80 (29.7)	26 (24.8)	54 (33.1)	
19歳以上	31 (11.5)	17 (16.2)	14 (8.6)	
イッキ飲みの経験 ^c				<0.001
あり	70 (21.4)	40 (33.6)	29 (14.0)	
なし	257 (78.6)	79 (66.4)	178 (86.0)	
ブラックアウトの経験 ^c				0.171
あり	31 (9.5)	15 (12.6)	16 (7.7)	
なし	296 (90.5)	104 (87.4)	191 (92.3)	
アルコールハラスメントを受けたことがある ^c				0.007
あり	28 (8.6)	17 (14.3)	11 (5.3)	
なし	298 (91.4)	102 (85.7)	195 (94.7)	

a:大人不在下での飲酒経験者に対する設問、b:過去30日間の飲酒経験者に対する設問、c:飲酒経験者(生涯)に対する設問